

[症例・事例・調査報告]

新潟県における薬物乱用問題の現状把握と 今後の支援介入の方向性

近藤あゆみ¹⁾, 伊東 正裕¹⁾, 長谷川利夫¹⁾, 松本 京介¹⁾, 相田 陽子¹⁾,
三澤 寿美¹⁾, 河内 学²⁾, 桐生 敏行²⁾, 金谷 光子¹⁾, 渡邊 良弘¹⁾

キーワード：現状，薬物乱用，支援介入，新潟県

The present status related to substance abuse and future intervention in Niigata Prefecture

Ayumi Kondo¹⁾, Masahiro Ito¹⁾, Toshio Hasegawa¹⁾, Kyosuke Matsumoto¹⁾,
Yoko Aida¹⁾, Sumi Misawa¹⁾, Manabu Kawauchi²⁾, Toshiyuki Kiryu²⁾,
Mitsuko Kanaya¹⁾, Yoshihiro Watanabe¹⁾

Abstract

A symposium related to substance abuse in Niigata Prefecture was held in 2010, in which a questionnaire was distributed to 42 participants. The result showed that 38.1 percent of them have met illegal drug users at work. Furthermore, about three quarters of the participants (76.2%) believed it was important to expand measures against illegal drug abuse. Especially important issues concerned; substance abuse prevention for adolescents (78.6%), family intervention (78.6%), rehabilitation service (76.2%), and medical services (71.4%). It seemed that most professionals feel a deep need to enhance treatment and support for substance abusers and their families in addition to substance abuse prevention for adolescents.

Key words : present status, substance abuse, intervention, Niigata Prefecture

要約

新潟県内において、薬物問題に関する理解を深めることを目的としたシンポジウムを開催し、参加者のうち42名を対象としたアンケート調査を実施した。調査の結果、38.1%が「患者、利用者、生徒など、職業上関わった人の中に違法薬物の使用経験者がいた（いる）」と回答

するなど、薬物問題の身近さが示唆された。また、県内で今後薬物乱用・依存症対策の充実をはかることの重要性については、76.2%が「極めて重要である」と回答した。今後充実すべき対策としては、「青少年に対する薬物乱用予防教育」（78.6%）、「薬物乱用者をもつ家族に対する相談支援」（78.6%）、「薬物乱用者の社会復帰支援」

2010年9月29日受付、2010年11月17日受理

1) 新潟医療福祉大学

2) 黒川病院

[連絡先] 近藤あゆみ

〒950-3198 新潟県新潟市北区島見町1398番地
TEL: 025-257-4455

(76.2%)、「薬物乱用者に対する医療」(71.4%)などが多く、関係者の多くが、青少年に対する予防教育の充実に加え、薬物依存症者及びその家族に対する医療・支援を充実させることの重要性を強く感じていることがうかがえた。

I はじめに

わが国は、先進国のなかでは奇跡的に著しい薬物汚染の被害を逃れ続けてきた国のひとつであるが、それでも尚、薬物問題が戦後一貫してわが国の深刻な社会問題のひとつとして存在し続けていることは否定できない。

また、覚せい剤事犯の再犯率が約5割と非常に高いこと¹⁾は、わが国の刑務所の過剰収容問題の一因となっている。このことは、覚せい剤の依存性の強さを表しているものであり、違法薬物乱用問題が、犯罪行為であると同時に、薬物依存症という精神障害の観点から対処される必要があることを示している。欧米では既に、逮捕された薬物事犯に対しては、治療を選択すれば刑が減免されるなどの法整備が進んでいる²⁾。わが国でも、今後は取締りを強化するだけでなく、薬物依存症の治療、薬物乱用・依存症者の社会復帰支援を充実させていく方向性を目指すことが重要であり、また、そのことは、平成20年に薬物乱用対策推進本部で決定された第三次薬物乱用防止五か年戦略³⁾にも明記されている。

このような背景の中で、新潟県内の薬物乱用についてみると、平成19年の新潟県の覚せい剤取締り法犯送致件数は84件であり、同年の全国送致件数16,929件と比較すると、わずか0.4%と非常に低い⁴⁾。一方で、新潟県の保健所及び市区町村が実施した精神保健福祉相談における薬物相談の被指導延人員は85人であり、全国の延人員6,194人の約1.4%に過ぎないが、順位をみると47都道府県中14番目であり⁵⁾、決して看過できない状況にあることがわかる。このような現状において、今後は新潟県内においても、薬物乱用・依存症者及びその家族への支援体制の整備が重要な課題となると考えた。

そこで、新潟医療福祉大学研究推進機構こころの健康支援研究センターでは、新潟県内において、薬物乱用・依存問題に関する理解を深めることを目的としたシンポジウムを開催し、併せて、シンポジウム参加者を対象としたアンケート調査を実施することにした。アンケート調査の目的は、新潟県における薬物乱用・依存問題に関する現状、薬物問題に関する啓発活動や支援介入に対する関係者の意識等を把握することである。

II シンポジウム

1) 広報及び申し込みの方法

広報は、新潟医療福祉大学のホームページに情報を掲載し、また、新潟市内の公民館や新潟市総合福祉会館に案内を置くことで行った。新潟県内にある2箇所の精神保健福祉センター、新潟市内の保健所、新潟市内の精神科病院及び精神障害者社会福祉施設、新潟市内の大学、高等学校、中学校に対しては、案内及び申込用紙を郵送した。参加者からの申し込みは、ファックス、郵送、E-MAILのいずれかにより行われた。

2) 開催日時及び会場

開催日時は、平成22年1月16日(土)14:00-16:30、会場は、新潟市総合福祉会館(新潟市八千代1丁目3番1号)にて実施した。

3) 内容

シンポジウム「薬物依存症からの回復-地域資源の重要性とその役割-」に招聘した講師氏名(所属)及び「講演タイトル」は、和田清(国立精神・神経センター精神保健研究所薬物依存研究部部長)「わが国の薬物問題の現状」、渡邊厚司(学校法人産業教育事業団マロニエ医療福祉専門学校医療学部作業療法学科学科長)「薬物依存症からの回復における作業療法の有効性」、栗坪千明(栃木ダルク代表)「構造化された回復システムの可能性」、小西憲(新潟県薬物依存症者を抱える家族の会世話人)「薬物依存症者をもつ家族の立場から」である。

4) 参加者

行政・医療・保健機関等職員、薬物依存症者本人及びその家族、一般市民等を対象とした。当日の参加者数は、参加者名簿への記名によると49名であった。

III アンケート調査の対象と方法

シンポジウム参加者を対象に無記名のアンケート調査を実施した。調査に関する説明書および調査票は、当日の資料とともに参加者全員に配布した。その上で、シンポジウム開始に先立ち、参加者全員に向けて調査説明を行い、調査協力を依頼した。回収方法は、会場受付に設置した調査票回収ボックスへの任意による投書である。

調査項目は、対象者の基本属性(性別、年齢、居住地、職種等)、薬物乱用・依存の実態、薬物乱用・依存に対する関心、新潟県内における薬物乱用・依存問題に関する支援体制の評価などである。

尚、本研究は新潟医療福祉大学倫理委員会の承認を得て実施したものである(承認番号17146-091104)。

表1 対象者の属性

		度数（％）
性別	男性	17（40.5）
	女性	25（59.5）
年層	20－29	8（19.0）
	30－39	13（31.0）
	40－49	7（16.7）
	50－59	9（21.4）
	60－	4（9.5）
	無回答	1（2.4）
居住地	新潟県内	41（97.6）
	新潟県外	1（2.4）
職場	医療機関	20（47.6）
	保健機関	6（14.3）
	社会福祉施設	2（4.8）
	民間依存症リハビリ施設	1（2.4）
	大学	3（7.1）
	その他	4（9.5）
	無職	5（11.9）
	無回答	1（2.4）
合計		42（100.0）

Ⅳ 結果

1) 対象者の属性

シンポジウム参加者から42名の回答が得られた。回答率は85.7%（42/49）であった。対象者の属性を表1に示す。

2) 身近に存在する薬物使用経験者の有無

身近に存在する薬物使用経験者の有無に関する問いへの回答を表2に示す（複数回答可）。覚せい剤などの違法薬物と市販薬などの合法薬物にわけて聞いたところ、違法薬物については、約4割（38.1%）が「患者、利用者、生徒など、職業上関わった人の中に違法薬物（覚せい剤、大麻、シンナーなど）の使用経験者がいた（いる）」と回答しており、また、約3割（28.6%）が「家族や友人など、私生活で関わった人の中に違法薬物（覚せい剤、大麻、シンナーなど）の使用経験者がいた（いる）」と回答していた。合法薬物については、違法薬物よりも身近に存在する割合が若干低かった。

3) 居住県内における薬物乱用・依存症対策の重要性

居住県内で今後薬物乱用・依存症対策の充実をはかることの重要性について聞いた結果を表3に示す。全体の約8割（76.2%）が「薬物乱用・依存症対策の充実をはかることは極めて重要である」と回答していた。

4) 今後充実したほうがよいと思う薬物乱用・依存症対策

今後充実したほうがよいと思う薬物乱用・依存症対策について聞いた結果を表4に示す（複数回答可）。

表2 身近に存在する薬物使用経験者の有無

	度数（％）
患者、利用者、生徒など、職業上関わった人の中に違法薬物（覚せい剤、大麻、シンナーなど）の使用経験者がいた（いる）	16（38.1）
家族や友人など、私生活で関わった人の中に違法薬物（覚せい剤、大麻、シンナーなど）の使用経験者がいた（いる）	12（28.6）
患者、利用者、生徒など、職業上関わった人の中に違法ではない薬物（市販薬、処方薬など）を遊び目的で使用した経験がある人がいた（いる）	14（33.3）
家族や友人など、私生活で関わった人の中に違法ではない薬物（市販薬、処方薬など）を遊び目的で使用した経験がある人がいた（いる）	4（16.7）
無回答	3（7.1）
合計	42（100.0）
複数回答可	

表3 居住県内における薬物乱用・依存症対策の重要性

職場	全く重要 ではない 度数(%)	それほど 重要では ない度数 (%)	極めて重 要である 度数(%)	ある程度 重要であ る度数 (%)	合 計 度数(%)
医療機関	0 (0.0)	0 (0.0)	16 (80.0)	4 (20.0)	20 (100.0)
保健機関	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (50.0)	3 (50.0)	6 (100.0)
社会福祉施設	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
民間依存症リハビリ施設	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
大学	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100.0)	0 (0.0)	3 (100.0)
その他	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
無職	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (100.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
無回答	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
合計	0 (0.0)	0 (0.0)	32 (76.2)	10 (23.8)	42 (100.0)

表4 今後充実したほうがよいと思う薬物乱用・依存症対策

	度数 (%)
青少年に対する薬物乱用予防教育	33 (78.6)
薬物乱用者をもつ家族に対する相談支援	33 (78.6)
薬物乱用者の社会復帰支援	32 (76.2)
薬物乱用者に対する医療	30 (71.4)
薬物問題の援助技術向上のための関係者向け研修	29 (69.0)
一般市民向けの薬物問題の啓発活動	29 (69.0)
薬物乱用者に対する相談	28 (66.7)
薬物流通経路の解明および摘発	21 (50.0)
薬物乱用者の取り締まり	17 (40.5)
その他	2 (4.8)
無回答	1 (2.4)
合計	42 (100.0)
複数回答可	

表5 今後の薬物関連のイベントで希望するテーマ

	度数 (%)
薬物依存症という病気について	24 (57.1)
薬物依存症者治療に関する近年の動向について	20 (47.6)
薬物依存症からの回復者の体験談	19 (45.2)
薬物依存症者をもつ家族に対する支援介入に関する近年の動向について	18 (42.9)
日本の薬物問題の現状について	16 (38.1)
薬物依存症者をもつ家族の体験談	15 (35.7)
その他	4 (9.5)
無回答	1 (2.4)
合計	42 (100.0)

5) シンポジウムに参加した感想

シンポジウムに参加した感想については、最も多かったのが「非常によかった」(52.4%)であり、全体の約半数を占めていた。次に多かったのが、「まあまあよかった」(35.7%)であり、両方を合わせると、約9割(88.1%)から良い感想が得られた。

6) 今後の薬物関連のイベントに対する希望

「今後このような薬物関連のイベントが開催された場合、また参加しようと思いますか」という問いに対する回答は、「ぜひまた参加したい」(47.6%)、「できれば参加したい」(50.0%)合わせて、ほぼ全員(97.6%)が今後の参加を希望していた。

上記の、今後の薬物関連のイベントに対する参加希望に関する問いに「ぜひまた参加したい」または「できれば参加したい」と回答した者に対し、「今後このような薬物関連のイベントが開催された場合、どのような話が聞けるとよいと思いますか」と質問した結果を表5に示す。

V 考察

1) 新潟県内においても身近に存在する薬物使用経験者

対象者の職場は、医療機関、保健機関、社会福祉施設、民間依存症リハビリ施設と、精神障害者の治療や支援を行う機関に所属する者が多く、全体の69.0%を占めていた(29/42人)。対象者全体の約4割が「職業上関わった人の中に違法薬物の使用経験者がいた(いる)」と回答しており、また、約3割が「私生活で関わった人の中に違法薬物の使用経験者がいた(いる)」と回答していた。また、合法薬物については、約3割が「職業上関わった人の中に違法ではない薬物を遊び目的で使用した経験がある人がいた(いる)」と回答しており、また、約2割が「私生活で関わった人の中に違法ではない薬物を遊び目的で使用した経験がある人がいた(いる)」と回答していた。もちろん対象者には、日頃より薬物乱用・依存症者と接する可能性が高い者が多く含まれていることが想定されるが、これらの割合の高さからは、新潟県内の治療・援助機関においても、日常生活においても、薬物乱用・依存症者と出会うことは決して珍しくないことがうかがえる。

2) 新潟県内における薬物乱用・依存症対策の重要性

対象者の全員が「薬物乱用・依存症対策の充実をはかることは極めて重要である」「薬物乱用・依存症対策の充実をはかることはある程度重要である」と回答していた。

また、今後充実したほうがよいと思う薬物乱用・依存症対策については、「青少年に対する薬物乱用予防教育」

「薬物乱用者をもつ家族に対する相談支援」「薬物乱用者の社会復帰支援」「薬物乱用者に対する医療」「薬物問題の援助技術向上のための関係者向け研修」「一般市民向けの薬物問題の啓発活動」「薬物乱用者に対する相談」が多く、全体の約7割以上が上記対策の充実をはかることが重要であると回答していた。

調査結果からは、関係者の多くが、青少年に対する予防教育の充実に加え、薬物乱用・依存症者及びその家族に対する医療・支援を充実させることの重要性を強く感じていることがうかがえた。同時に、「薬物流通経路の解明および摘発」「薬物乱用者の取り締まり」の充実が重要であると考える者の割合は比較的低く、近年よくいわれるように、水際対策や取締りの強化だけで薬物問題を根絶しようとするものの限界を感じている者の割合が高いことが示唆された。

3) シンポジウムに対する満足度及び今後の期待

シンポジウムに参加した感想については、「非常によかった」「まあまあよかった」が約9割を占めており概ね良い感想が得られた。また、ほぼ全員が今後の薬物関連のイベントへの参加を希望していた。

今後の薬物関連のイベントで期待するテーマとしては、「薬物依存症という病気について」「薬物依存症者治療に関する近年の動向について」「薬物依存症からの回復者の体験談」「薬物依存症者をもつ家族に対する支援介入に関する近年の動向について」などが多かった。

参加者の関心が得られる上記テーマを中心に、今後もぜひ薬物関連のイベント等を地道に続けていきたい。薬物乱用・依存症者及びその家族に対する医療・支援の充実が重要であると認識しつつ、その実現がままならない現状においては、機会あるごとに薬物問題の身近さを話題にし、治療や支援の重要性を訴え、治療や支援に関する具体的なスキルを提示し、また、回復の希望を示し続けることが大切であると思うからである。

VI 引用文献

- 1) 法務省法務総合研究所。犯罪白書〈平成21年版〉再犯防止施策の充実。時事通信出版局。東京。2009。
- 2) 日本版ドラッグ・コート－処罰から治療へ。石塚伸一(編)。株式会社日本評論社。東京。2007。
- 3) 内閣府政策統括官(共生社会政策担当)。第三次薬物乱用防止五か年戦略。
<http://www8.cao.go.jp/souki/drug/sanzi5-senryaku.html>。2010/09/22。
- 4) 第119回新潟県統計年鑑。新潟県企画調整部統計課(編)。新潟県統計協会。新潟。2009。
- 5) 平成20年地域保健医療基礎統計。厚生労働省大臣官房統計情報部(編)。厚生統計協会。東京。2009。

I. あなた自身についておたずねします。

問1. あなたの性別を下記の番号の中からひとつ選んで○をつけてください。

1. 男性 2. 女性

問2. あなたの年齢を下記の（ ）の中にご記入下さい。

（ ）才

問3. あなたの居住地について、下記の番号の中から当てはまるものをひとつ選んで○をつけてください。

1. 新潟県内 2. 新潟県外

問4. あなたが現在所属している主な職場について、下記の番号の中から当てはまるものをひとつ選んで○をつけてください。（職種： ）の中には、具体的な職種名をご記入ください。「9. その他」を選んだ方は、（職業： ）の中に具体的な職業名をご記入ください。

- | | |
|--------------------------------------|-------------------------------------------|
| 1. 医療機関（職種： ） | 2. 保健機関（職種： ） |
| 3. 社会福祉施設（職種： ） | 4. 民間依存症リハビリ施設（職種： ） |
| 5. 大学（職種： ） | 6. 高等学校（職種： ） |
| 7. 中学校（職種： ） | 8. 小学校（職種： ） |
| 9. その他（職業： ） | 10. 無職 |

II. あなたの身近な薬物問題についておたずねします。

問5. あなたの知人の中に、これまで覚せい剤やシンナー等の薬物を使用した経験がある人はいますか。下記の中から当てはまるもの全てに○をつけてください。

1. 患者、利用者、生徒など、職業上関わった人の中に違法薬物（覚せい剤、大麻、シンナーなど）の使用経験者がいた（いる）。
2. 家族や友人など、私生活で関わった人の中に違法薬物（覚せい剤、大麻、シンナーなど）の使用経験者がいた（いる）。
3. これまでに違法薬物（覚せい剤、大麻、シンナーなど）の使用経験者に会ったことはない。
4. 患者、利用者、生徒など、職業上関わった人の中に違法ではない薬物（市販薬、処方薬など）を遊び目的で利用した経験がある人がいた（いる）。
5. 家族や友人など、私生活で関わった人の中に違法ではない薬物（市販薬、処方薬など）を遊び目的で利用した経験がある人がいた（いる）。
6. これまでに違法ではない薬物（市販薬、処方薬など）を遊び目的で利用した経験がある人に会ったことはない。

問6. あなたはこれまでに覚せい剤やシンナー等の薬物使用に誘われた経験がありますか。下記の中から当てはまるもの全てに○をつけてください。

1. 違法薬物（覚せい剤，大麻，シンナーなど）の使用に誘われた経験がある。
2. 違法薬物（覚せい剤，大麻，シンナーなど）の使用に誘われたことはない。
3. 違法ではない薬物（市販薬，処方薬など）の遊び目的の使用に誘われた経験がある。
4. 違法ではない薬物（市販薬，処方薬など）の遊び目的の使用に誘われたことはない。

問7. あなたはこれまでに覚せい剤やシンナー等の薬物使用をした経験がありますか。下記の中から当てはまるもの全てに○をつけてください。

1. 違法薬物（覚せい剤，大麻，シンナーなど）を使用した経験がある。
2. 違法薬物（覚せい剤，大麻，シンナーなど）を使用したことはない。
3. 違法ではない薬物（市販薬，処方薬など）を遊び目的で使用した経験がある。
4. 違法ではない薬物（市販薬，処方薬など）を遊び目的で使用したことはない。

Ⅲ. あなたがお住まいの地域における薬物乱用・依存症対策についておたずねします。

問8. 居住県内において今後、薬物乱用・依存症対策の充実をはかることの重要性について、下記の番号の中から当てはまるものをひとつ選んで○をつけてください。

1. 薬物乱用・依存症対策の充実をはかることは極めて重要である。
2. 薬物乱用・依存症対策の充実をはかることはある程度重要である。
3. 薬物乱用・依存症対策の充実をはかることはそれほど重要ではない。
4. 薬物乱用・依存症対策の充実をはかることは全く重要ではない。

問9. 問8において、1または2に○をつけた方のみお答えください。今後充実したほうがよいと思う薬物乱用・依存症対策について、下記の中から当てはまるもの全てに○をつけてください。「10. その他」を選んだ方は、
（ ）の中に具体的な対策をご記入ください。

1. 薬物流通経路の解明および摘発
2. 薬物乱用者の取り締まり
3. 青少年に対する薬物乱用予防教育
4. 薬物問題の援助技術向上のための関係者向け研修
5. 一般市民向けの薬物問題の啓発活動
6. 薬物乱用者に対する医療
7. 薬物乱用者に対する相談
8. 薬物乱用者の社会復帰支援
9. 薬物乱用者をもつ家族に対する相談支援
10. その他（ ）

Ⅳ. 本日のシンポジウムについておたずねします。

問10. シンポジウムに参加した理由について、下記の番号の中から最もよく当てはまるものをひとつ選んで○をつけてください。「5. その他」を選んだ方は、() の中に参加した理由を具体的にご記入ください。

1. 薬物乱用・依存問題と関連がある職業に就いているため関心があった。
2. 薬物乱用・依存症者本人として薬物乱用・依存問題に関心があった。
3. 薬物乱用・依存症者本人の家族として薬物乱用・依存問題に関心があった。
4. 一般市民として薬物乱用・依存問題に関心があった。
5. その他 ()

問11. シンポジウムに参加した感想について、下記の番号の中から当てはまるものをひとつ選んで○をつけてください。

1. 非常によかった
2. まあまあよかった
3. あまりよくなかった
4. 全くよくなかった

問12. 今後このような薬物関連のイベントが開催された場合、また参加しようと思いますか。下記の番号の中から当てはまるものをひとつ選んで○をつけてください。

1. ぜひまた参加したい
2. できれば参加したい
3. あまり参加したくない
4. 参加しない

問13. 問12において、1または2に○をつけた方のみお答えください。今後このような薬物関連のイベントが開催された場合、どのような話が聞けるとよいと思いますか。下記の中から当てはまるもの全てに○をつけてください。「7. その他」を選んだ方は、() の中にお聞きになりたい話の内容を具体的にご記入ください。

1. 日本の薬物問題の現状について
2. 薬物依存症という病気について
3. 薬物依存症者治療に関する近年の動向について
4. 薬物依存症者をもつ家族に対する支援介入に関する近年の動向について
5. 薬物依存症からの回復者の体験談
6. 薬物依存症者をもつ家族の体験談
7. その他 ()

***** ありがとうございました *****